

初年次教育としての基礎ゼミでの指導の工夫と受講生の反応

Novel Teaching Strategies for Basic Seminars in First-Year Education and Student Reactions to Them

村上達典¹⁾ 中村美砂^{1,2)}

¹⁾ 大阪河崎リハビリテーション大学：大阪府貝塚市水間 158 番地（〒 597-0104）

²⁾ 大阪河崎リハビリテーション大学大学院リハビリテーション研究科

Tatsunori Murakami¹⁾, Misa Nakamura^{1,2)}

¹⁾ *Osaka Kawasaki Rehabilitation University: 158 Mizuma, Kaizuka-city, Osaka 597-0104, Japan*

²⁾ *Graduate School of Rehabilitation, Osaka Kawasaki Rehabilitation University*

要旨：初年次の教育が、新入生の不安を軽減し、学修に対する動機づけを高める効果があることが示されている。本学の初年次教育の一つとして基礎ゼミが配置されている。関連施設見学が主なプログラムであるが、各教員が少人数のゼミを担当し、様々な工夫をして学修目標に達するよう指導している。本報告は基礎ゼミで行った指導による学生の学びの変化をアンケートにより把握することを目的とする。講義では、予習・復習といった自己学修を行う時間や場所、内容を具体的に示す指導や、『自分はどのような療法士になりたいか。』というテーマで課題設定を行い学生による発表を行った。全 8 回の講義後、ウェブによるアンケートを実施した。本報告では、著者が実施した基礎ゼミの内容と受講学生のアンケート結果について紹介する。

キーワード：学修、不安、意欲、リハビリテーション、初年度教育、アンケート

¹⁾ 村上達典 Tatsunori Murakami

E-mail: murakamit@kawasakigakuen.ac.jp

1. 序文

本学では、初年次教育の一つとして「基礎ゼミ」が配置されている。本科目の目標は医療人となる覚悟と関心を強化することである¹⁾。この中には、関連施設見学や見学レポートの作成などが含まれる。講義体制として、2名の教員が約4名の1年生学生を指導することとなっている。各学生は、入学時の成績を参考に各指導教員に割り振られ、学修目標の下、各教員が様々な工夫をして学修目標に達するように指導している。本報告は、理学療法学専攻教員の筆者らのゼミで行った指導により、学生の学びの変化を知り、来年度の基礎ゼミでの指導への参考とすることを目的とする。

2. 方法

2.1 対象

2024年度の大阪河崎リハビリテーション大学1年生の内、「基礎ゼミ」の講義で筆者ら担当のゼミ（以下、当ゼミ）に学生配属された学生とした。学生は4名であり、全員が理学療法学専攻であり、女性2名、男性2名であった。

2.2 講義の内容

講義は全8回で構成される。第1回はオリエンテーションであり、全ゼミが合同で実施された。各ゼミでのプログラムは第2回以降実施された。当ゼミでは第2回にパソコンを使用した情報収集の練習、Microsoft Word（以下、Word）を使用したレポート作成、Microsoft Teams（以下、Teams）による課題の提出方法の確認を行った。第3回では初回の関連施設見学を実施し、その後はスマートフォンのカレンダーアプリを利用したスケジュール管理法の指導を行い、段取り力を身に付けるように促した。第4回ではメール送信時の作法について指導を行った。また、1年

生前期履修科目の学修状況について聞き取りを行い、不安がある科目については予習、復習をするための時間を具体的に設定し、自己学修の習慣化を図った。更に、第6回にはオンライン講義を実施するため、それに備えてTeamsを用いたオンライン講義の受講方法を対面で指導した。第5回は2回目の関連施設見学を実施し、見学後は図書館を利用して1年生前期履修科目の参考となる図書を探すなど、情報利活用能力の向上を図った。また、他の講義で中間テストが実施される日が近いとの情報に対し、教員の研究室での自主勉強会を別途企画し、参加を促した。第6回はオンライン講義にてレポートのフィードバックを行った。第7回は3回目の関連施設見学を実施し、その後は問題解決型課題として『自分はどのような療法士になりたいか。』というテーマで課題設定を行い、発表の準備を行った。そして、最終の第8回には前述の課題発表を行い、質疑応答を通して自己の職業観について理解を深めることを促した。そこでは、スポーツに関心を持つ学生が複数おり、アスレチックトレーナーと理学療法士の違いについて自身で説明することなどを実施した。

2.3 アンケート調査

基礎ゼミによる学生の学びの変化を把握し、来年度の基礎ゼミでの指導の参考とするため、第8回の講義が終わる際にMicrosoft Formsによるウェブアンケートを実施した。

アンケートの内容は表2に示す6項目とした。この中で、質問1から質問4の項目に対しては3件法のリッカート尺度を用いて回答を依頼し、質問5と質問6の項目は自由記載とした。

なお、本アンケートの実施について、大阪河崎リハビリテーション大学研究倫理審査委員の承認を得ている（承認番号：OKRU-RA0085）。

表1. 基礎ゼミのプログラムと内容

回数	内容	工夫点
第1回	オリエンテーション	今後のスケジュールを文書にて配布し、口頭でも説明を行った。
第2回	レポートの作成方法	学生にパソコンを持参させ、Wordによるレポートの作成方法、Teamsによるレポートの提出作業を指導した。
第3回	関連施設見学①、カレンダーアプリの活用	学生のスマートフォンを利用し、カレンダーアプリに小テストの予定や次の関連施設見学の予定を入力させた。
第4回	レポートのフィードバック、1年生科目の進捗状況確認、メール送信のマナー、オンライン講義の受講方法	不安がある科目については予習、復習をするための時間を具体的に提案し、自己学習の習慣化を図った。
第5回	関連施設見学②、図書館の活用	1年生前期履修科目の参考となる図書を探すなど、情報利用活用能力の向上を図った。
第6回	オンライン講義でレポートのフィードバック	Teamsを活用し関連施設見学のレポートのフィードバックを行い、パソコン操作能力・オンライン活用能力の向上を図った。
第7回	関連施設見学③、問題解決課題の発表準備	『自分はどのような療法士になりたいか。』というテーマで課題設定を行い、発表の準備を行った。
第8回	レポートのフィードバック、問題解決課題の発表	発表や質疑応答を通して自己の職業観について理解を深めることを促した。

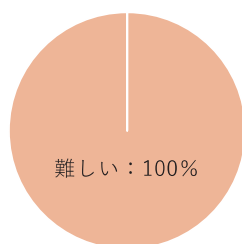
表2. アンケートの内容

質問番号	内容	回答方法
質問1	1年生前期の勉強内容は難しいと感じますか？	3件法
質問2	4年間勉強を続けることに対して不安はありますか？	3件法
質問3	この講義（基礎ゼミ）を受けて勉強への意欲は変化しましたか？	3件法
質問4	この講義を受けて学習継続の不安は変化しましたか？	3件法
質問5	この講義で他に指導して欲しいと思うことはありますか？	自由記載
質問6	この講義の感想を自由に記載してください。	自由記載

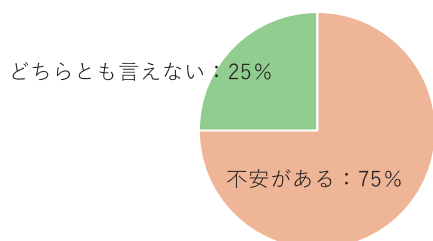
3. 結果

アンケートの質問1から質問4の結果を図1に示す。また、質問5『この講義で他に指導して欲しいと思うことはありますか？』の問いに対しては、『先生方が実際に経験したことをもっと教えて欲しいと思った。』『全部指導して欲しいです。』『ないです。』『特になし。』との回答があった。質問6『この講義の感想を自由に記載してください。』の問いに対しては、『自分の将来についてよく考えることができた。色々な施設を見学させていただいて理学療法士の働き方について前よりも理解することができた。』『病院の見学に行けたし、知らないことをたくさん教えてくださったので、勉強になりました。初めてレポートというものを書くことができたし、様々な分野を学ぶことができたので楽しかったです。』『実際に施設にも行けてどのようなことが起きているか知れてよかった。』『楽しかったです。』との回答があった。

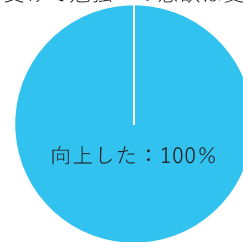
1. 1年生前期の勉強は難しいと感じますか？



2. 4年間勉強を続けることに対して不安はありますか？



3. この講義を受けて勉強への意欲は変化しましたか？



4. この講義を受けて学習継続の不安は変化しましたか？

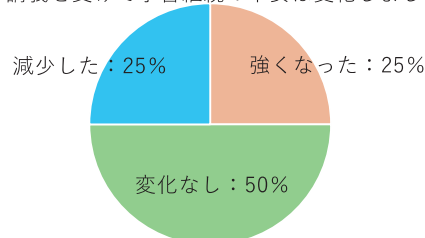


図1 アンケートの結果 (n=4)

4. 考察

今回、基礎ゼミの講義における学修目標としては、医療人となる覚悟と関心を強化する、自発的な学修意欲を向上させる、文章作成能力を向上させる、図書館等を利用して情報活用能力を向上させる、パソコン操作能力・オンライン活用能力を向上させる、段取り力を身に付ける、協調性、社会性を深めることができるとしている¹⁾。講義の内容については、上記学修目標を到達できるように工夫を行った。1年生前期の講義で不安を感じている学生が多かったことから、予習・復習などの学修習慣を促す関わりに加え、中間テスト対策として自主勉強の場所を提供し、スケジュール設定を促した。また、自身が目指す療法士の職業観を具体的にイメージできるようになることを目的に、自ら調べ、発表するようなアクティブ・ラーニング型の課題を提示した。アスレチックトレーナーなど他職種と療法士の違いについて考える過程などを経て、より療法士への理解が深まることを期待して携わった。

アンケートの結果としては、1年生前期の勉強を難しいと感じている学生が全員であり、4名中3名は4年間勉強を続けることに不安を感じていた。そのような対象に対し、この講義を受けることで勉強への意欲が向上したと全員が答えており、学修方法の指導としては一定の効果があつたのではないかと考えている。一方で、この講義を受けて学修継続の不安については変化無しが半数、不安が強くなったと、減少したが1名ずつという結果であり、学修継続への不安に対しては必ずしも良い反応が得られたわけではなく、学修習慣化の継続的な支援が必要であると考えられた。また、この点については来年度の基礎ゼミでの課題として考えていきたい。自由記載の項目からは、『自分の将来についてよく考えることができた。』など、教員側

の意図していた内容が伝えられていたことも確認された。

「自ら学ぶ意欲のプロセスモデル」では学習動機づけ、学習方法、自己効力感が主要な要因として示されている²⁾。療法士養成校に在籍する学生にとって、学修動機づけの最たるものとしては、自身が目指す療法士の魅力や強みを理解することであると考ええる。その上で、自己学修の時間や場所、内容を提示し、学修方法の具体化を促した。その学修を継続することで、受講科目の理解向上や自己効力感の向上へ寄与できていれば幸いである。

5. 結論

対象が4名と少ない報告ではあるが、初年度の学修を難しいと感じている学生は多く、基礎ゼミでの関わりは学生の勉強への意欲向上に貢献できる可能性が示唆された。これからも基礎ゼミでの関わり方の改善を図り、勉強に不安を感じている学生の勉強への意欲向上や不安軽減に貢献できればと考える。

6. 謝辞

関連施設見学にご協力いただいている河崎病院、水間病院、水間ヶ丘の職員方と患者様、利用者様へ深く感謝申し上げます。

7. 文献

- 1) 大阪河崎リハビリテーション大学「2024年度 基礎ゼミ」シラバス
- 2) 櫻井茂男：自ら学ぶ意欲の心理学－キャリア発達の視点を加えて－。有斐閣，東京，2009